

令和5年度池田市図書館の運営に関する評価

令和6年12月

1 評価の目的

池田市図書館では、図書館法第7条の3及び「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年文科省告示）に基づき、毎年度図書館として取り組むべき目標を定め、当該年度における取組み結果について評価を実施しています。その結果に基づき、図書館運営の改善を図っていきます。

2 評価の方法

(1) 自己評価

- ・評価項目は、基本的な利用に関する項目と「池田市図書館運営方針」に基づく施策に関する項目で設定し、自己評価を行います。
- ・数値評価は目標値を対前年度比増に設定します。

(2) 外部評価

- ・図書館協議会において、当該年度の活動実績と自己評価について報告するとともに外部評価を実施します。

3 評価の基準

- A 計画どおり実施し、一定の成果があった。
- B 概ね計画どおりだが、課題が残った。
- C 計画に遅延があるなど不十分な点や課題が多かった。

(1) 基本的な利用に関する評価について

(年度末比較)

指標	令和5年度	令和4年度	前年度比		図書館 評価	協議会 評価
			人数	増減		
年間来館者数	600,419人	558,250人	42,169人増	7.6%増	A	A
年間貸出人数	300,271人	299,583人	688人増	0.2%増	A	A
年間貸出冊数	757,666冊	773,485冊	15,819冊減	2.0%減	B	B
有効登録者数※	18,637人	18,821人	184人減	1.0%減	B	B

※個人利用者数

●自己評価説明

令和5年度は、5月8日より新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行したことから、法律に基づいた外出自粛の要請がなくなり、市民の生活が大きく変化した年度となった。

図書館においても、閲覧席やAVコーナー、パソコンコーナー等の座席数や行事の人数制限を新型コロナウイルス感染症が拡大する前の状態に戻す一方、感染症対策に配慮しつつ行事等を実施するといった、新たなサービスの形が定着した。

また、12月からは、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して導入した電子図書館サービスが開始し、図書館から遠方にお住いの方や障がい、子育て、介護、仕事、学校生活等により図書館への来館が困難な方へのサービス拡大が実現した。

前年度と比較したところ、来館者数が増加しており、中止していた図書館行事の再開や外出自粛がなくなったこと等の影響が窺える。一方、貸出人数が増加しているが貸出冊数が減少している点については、年齢別に統計をとると、乳幼児世代や子育て世代が減少し、高齢者層が増加しており、年代の違いで1回の貸出しで借りる冊数が変化している可能性が考えられる。また、登録者数については、ほぼ横ばいの結果となった。

今後は、従来の紙の本と電子書籍とを両立したサービスを持続し、全ての市民が快適に利用できるよう、さらに利便性向上につながる新たなサービス提供に取り組みたい。

●図書館協議会の意見

- ・一人当たりの貸出冊数が減っている点については今後長期的な検証が必要である。
- ・数値的な減少のために貸出冊数の評価基準としてはB評価となるが、利用者層の変化等の減少理由について検証しており、その内容から図書館側の対応不足ではないと感じた。

●結果の分析及び改善策

- ・貸出人数が増加しているが、貸出冊数が減少している点について、長期的に数値を分析して原因を把握する。
- ・電子図書館の利用拡大については、引き続き体験会を実施するなど、インターネット環境に慣れていない市民への操作支援に努めるとともに、コンテンツの充実を図る必要がある。
- ・市民の利便性向上に向けて、次期図書館システム更新時には、スマートフォンやタブレットで図書館カードを表示できる機能を搭載し、一切来館することなく電子図書館を利用できるよう、電子申請による図書館カードの発行を実現する。

(2) 「池田市図書館運営方針」に基づく施策評価

① 多様な資料・情報の収集、整理、保存に努め、市民の読書活動を推進します。

※●は令和5年度重点目標

目 標	「池田市図書館収集方針」に基づいた資料の収集			
具体的取組み	選書委員会の実施による適正な資料の収集、保存を行う			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書数 408,397 冊（前年 405,603 冊、前年度比 0.7%増） 寄贈書を活用し、新規受け入れ資料の充実を図るとともに、除籍により適正な蔵書管理に努めた。 また、傷みの著しい資料のうち、今後も提供が必要な資料については、買い替えや寄贈資料での差し替え作業を積極的に実施した。 開架冊数 203,688 冊：池田 138,576 冊、石橋 65,112 冊 （前年 198,485 冊（2.6%増）、池田 137,680 冊（0.7%増）、石橋 60,805 冊（7.1%増）） 池田・石橋の両館とも収容予定冊数を超えた蔵書数となった。 市民 1 人あたりの蔵書数は 4 冊となった。（前年 3.9 冊） 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	郷土資料・行政資料の充実			
具体的取組み	郷土資料や行政資料の充実、整理、市民への周知に努める			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 郷土資料蔵書数 池田 9,296 冊 石橋 1,959 冊 （前年 池田 9,313 冊（0.2%減） 石橋 1,738 冊（12.7%増）） 前年度に引き続き、両館の郷土資料コーナーの充実に取り組み、池田から石橋へ資料の移動を行った。全体では前年度に比べ 204 冊の増加となった。 郷土コーナーに新たに防災コーナーを設置し、配布用ハザードマップも常備するようにした。（石橋） 郷土文献リストを図書館ホームページに公開した。（5 件）（前年 5 件） 郷土に関するレファレンスについて、自館システムへの事例登録を行った。（8 件）（前年 7 件） 郷土展示コーナーを常設化し、ウォンバットや五月山、小林一三などのテーマで資料展示を行った。（展示回数 5 回） 歴史民俗資料館と連携し、郷土資料を電子化、電子図書館システムで公開した。（30 点） 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	池田図書館と石橋図書館の連携と特色ある棚づくり			
具体的取組み	それぞれの館の特性に応じた資料収集と棚づくりに努める。			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報コーナー蔵書数 1,340 冊 棚の配置を見直し、ガイドラインなど情報が更新されている分野については新しい資料を選書し、入れ替えを行った。 ・子育て支援コーナー蔵書数 1,705 冊（池田 1,143 冊 石橋 562 冊） 市内の児童施設だよりや子ども向けイベントの情報を集めた棚を作成し、表示を工夫した。（石橋） ・洋書コーナー蔵書数 1,638 冊（池田 1,196 冊 石橋 442 冊） ・いきいきライフコーナーに見出しを追加し、わかりやすい棚づくりに努めた。（蔵書数 1,266 冊） ・テーマ展示回数 96 回（池田 58 回 石橋 38 回） 大阪府と連携した「めざそう！10歳若返り」展示や、ダイバーシティセンター開催のイベントに関連した特別展示などを行った。（石橋） ・ツナガリエ石橋 5 階のダイバーシティコーナーの資料を適宜入替えし、関連資料を収集した。（蔵書数 224 冊）（石橋） 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・「郷土資料・行政資料の充実」については、図書館の郷土コーナーで行っていたウォンバットに関する展示は市の観光PRにもなるとも良い取り組みだった。今後も五月山動物園など各所と連携して特集を組むなど更なる充実を期待する。
- ・ハザードマップなど、地域の防災に関することは市民への周知が重要であることから、図書館で扱うのは効果が期待できる方策である。
- ・歴史民俗資料館と連携した郷土資料の電子図書館システムでの公開は、市の文化遺産を他市へも紹介できる効果的な方法である。展示や講座等でも連携した事業を期待している。
- ・資料の購入や施設利用についてのアンケート調査の実施を検討する必要がある。
- ・3項目とも協議会の評価はAとする。

◆結果の分析及び改善策

- ・蔵書数については、書庫の収容量に限界があることから、今後は電子書籍も含めた管理方法を検討する。
- ・防災関係や医療、郷土関係の資料やパンフレットについて、市担当課と連携して展示・配布し、市民への周知に役立てた。今後も展示や行事を実施し、市行政の情報発信に努める。
- ・郷土資料に関しては、歴史民俗資料館と連携した取り組みを今後も促進し、市内外へ池田市の魅力を発信していきたい。

② 社会の変化と市民のニーズに対応した情報を発信し、地域住民の課題解決に役立つ図書館づくりをめざします。

※●は令和5年度重点目標

目 標	●課題解決サービスの充実			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●各種データベースの活用 ・レファレンスサービスの充実 ●各種講座の実施 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス事例を、自館システム及びレファレンス協同データベースへ登録した。(自館システム登録：80件、レファレンス協同データベース：2件) ・SDGsコーナーの蔵書数308冊(石橋) ・児童書コーナーに子ども向けパスファインダーコーナーを設置した。(石橋) ・オンラインデータベース利用件数1,143件(前年494件) ・オンラインデータベースの利用案内を作成した。 ・各種講座の実施回数 40回 <p>定例の手話講座をはじめ、「子どもの考える力を育てるワークショップ」「絵本講座」や、「暮らしに役立つ情報講座」など、各種講座を実施した。</p>			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	ホームページやSNSの活用			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館から、行事やおすすめ資料などの情報を積極的に発信する。 ●インターネット予約の利用促進に努める。 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット予約件数 118,863件(前年 118,554件(0.3%増)) ・OPAC利用件数 1,584,854件(前年 1,679,135件(5.6%減)) ・図書館ホームページやX(旧Twitter)にて、行事や展示などの案内・報告を発信した。 ・館のキャラクター「もんきち」を通して季節折々の発信を行った。(石橋) ・電子図書館の入口のアイコンを図書館ホームページのトップページに作成し、簡単に電子図書館へアクセスできるように工夫した。 ・講座の申し込みや電子図書館のアンケートに市のLoGoフォームを活用し、利用者の利便性と業務の効率化を図った。 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	広域利用・相互貸借の促進			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・7市3町広域利用及び川西市との相互利用の促進 ・相互貸借の活用 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・7市3町広域利用数 <p>登録者 1,705人(前年1,557人(9.5%増))</p> <p>利用数 池田市：他市町住民4,866人、11,130冊 (前年4,311人(12.9%増)、10,356冊(7.5%増))</p> <p>他市町：池田市民9,823人、32,167冊</p>			

	<p>(前年 9,725 人 (1.0%増)、31,595 冊 (1.8%増)) 広域利用全体 113,921 人 368,330 冊 (前年 109,243 人 (4.3%増)、353,918 冊 (4.1%増)) 他市町民の本市利用については、登録者数、利用数ともに前年度より微増する結果となった。また、広域利用全体についても微増傾向となり、利用の定着が窺える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 川西市との相互利用 登録者 1,194 人(前年 1,081 人 (10.5%増)) 利用数 池田市：川西市民 3,198 人、7,373 冊 (前年 2,790 人 (14.6%増)、6,815 冊 (8.2%増)) 川西市：池田市民 3,007 人、8,592 冊 (前年 3,180 人 (5.4%減)、8,959 冊 (4.1%減)) 相互利用全体 6,205 人、15,965 冊 (前年 5,970 人 (3.9%増)、15,774 冊 (1.2%増)) 川西市民の本市利用については、登録者数、利用数ともに前年度より微増する結果となった。池田市民の川西市利用については減少傾向となったが、相互利用全体では増加傾向となった。 相互貸借件数 借受 2,645 冊 (前年 2,955 冊 (10.5%減)) 貸出 960 冊 (前年 1,069 冊 (10.2%減)) 相互貸借件数は借受・貸出ともに前年度に比べると 10%の減少となった。 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・ SNS を活用して、紙で配布している「新着資料案内」のような形式で新着案内の送信を検討してほしい。
- ・ インターネット予約件数や O P A C 利用件数の数値が高く、利用の多さが窺える。
- ・ 石橋図書館のキャラクター「もんきち」の発信は、市民が親しみやすい取り組みである。
- ・ 3 項目とも協議会の評価は A とする。

◆結果の分析及び改善策

- ・ 新着資料の情報提供については、現在も案内している図書館システムと連携して自動で送信される「新着案内配信サービス」の周知を図る。
- ・ オンラインデータベースの利用促進を図るため、使い方講座を開催する。
- ・ 様々な分野での講座を開催し、あらゆる世代や対象への課題解決支援に努める。
- ・ 広域利用や相互貸借のサービスをさらに周知して、市民の利便性向上に努める。
- ・ 展示や行事の宣伝に SNS を活用して、図書館の認知度を高め、図書館の利用促進を図る。

③ 子どもたちの豊かな「学び」を応援し、学校、家庭、地域等と連携して子ども読書活動の推進を図ります。

※●は令和5年度重点目標

目 標	子どもへの読書機会の提供			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・児童書の充実 ●おはなし会の開催 ・テーマ展示実施 ●各種ブックリストの作成 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童書冊数 134,185 冊（前年 131,650 冊（1.9%増）） 児童書の充実を図ったことにより、開架冊数も 65,701 冊（前年 63,698 冊）と前年度に比べ 2,003 冊（3.1%）の増加となった。 ・おはなし会実施回数 80 回 1,310 人（前年 69 回 729 人） 多目的室からキッズコーナーへと開催場所を変更し、申込不要で人数を制限することなくおはなし会を開催した。石橋では書架レイアウトを一部変更しスペースを広げ、絵本コーナーで定例おはなし会の開催が可能となった。 ・定例おはなし会で読んだ資料を絵本コーナーに展示し、当日参加できなかった利用者にも紹介するコーナーを作成した。（石橋） ・テーマ展示実施回数 45 回 季節やトピックスに合わせ様々なテーマでの展示を実施した。 ・小学生向けのパスファインダーコーナーを設置した。（石橋） ・調べ案内や、おはなし会で読んだ絵本・紹介された絵本のブックリストを作成した。（池田 1 件、石橋 1 件） ・電子図書館の資料を探しやすくするため、児童向けのシリーズごとのバナーを作成した。 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	ヤングアダルトサービスの充実			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・10's コーナーの活性化 ・10代向けブックリストの作成 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・10's コーナー蔵書数 7,203 冊（前年 6,996 冊） ・職場体験学習の中学生が作成した資料紹介ポップの作成及び本の展示を実施したほか、「あなたの知らない文豪の世界」や「マイノリティとマジョリティ」など、10代に向けて身近なテーマで資料を選書し、展示を実施するとともに、図書館ホームページにも掲載した。（展示回数 7 回） ・電子図書館にティーンズ向けの特集を作成した。 ・中高生向け 1 日司書体験を実施した。（2 日間 8 名） 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	学校図書館との連携促進			
具体的取組み	学校司書と連携し、調べ学習用資料などを提供する。			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・団体貸出冊数 29,532 冊（前年 23,093 冊（27.9%増）） ・調べ学習支援件数 46 件 ・学校図書館教育研修会を図書館で開催し、双方からの連絡や情報共有につとめ、学校司書のニーズの把握や資料提供に役立てた。 ・学校図書館教育研修会において、おはなし飛行船より絵本の読み聞かせ講座を実施した。 ・図書館、学校司書、おはなしボランティアが連携し、市内中学校の家庭科授業においておはなし飛行船による絵本講座を実施した。 ・メールなどで密な連絡をとりながら、レファレンスや調べ学習用の資料収集、貸出については市内連絡便で配送するなど、迅速な対応に努めた。 ・学校からの依頼を受けボランティア「おはなし飛行船」の学校派遣事業を行った。（47回） ・市内学校の先生が制作したインドネシア語の絵本を受入れし、紹介POPの掲示を行った。（石橋） 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	団体貸出しの充実			
具体的取組み	学校や文庫、地域コミュニティなどへの団体貸出しを実施			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・団体貸出冊数 21 団体 29,532 冊（前年 21 団体 23,093 冊（27.9%増）） 今年度は選書を例年通り行えたことから、前年度に比べて貸出冊数は増加した。また、前々年度（27,807 冊）と比べても貸出冊数は増加傾向であることが窺える。 ・団体貸出の選書時に、図書館の除籍本について活用可能な資料を選定してもらい、各団体で役立ててもらおう機会を設けた。 			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	見学や職場体験学習の受入れ			
具体的取組み	小学校の見学や中学校の体験学習の受入れを実施			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・見学受入件数 10 件（前年 9 件） ・職場体験学習受入件数 7 件（前年 2 件） 			

	見学、体験学習ともに前年度の件数を上回り、概ねコロナ禍前の実施数となった。池田図書館については、商業施設内にあり、フロア面積が狭小であることから、蔵書点検期間を案内することで、落ち着いて見学していただけるよう配慮して実施した。			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・「見学や職場体験学習の受入れ」についてはコロナ前の実施件数に戻っており、休館日に小学校の学校見学を行うなど工夫して取り組んでいる。子ども一人では図書館まで来られない地域も多いことから、更なる学校との連携を期待する。
- ・学童保育では本を読む機会に恵まれないと聞いている。おはなし飛行船の派遣事業を学童も対象にするなど、図書館側からの取組みも検討してほしい。
- ・「ヤングアダルトサービスの充実」の取組みにある「中高生向けの1日司書体験」は初めての試みとのことだが、利用率が低い年代への利用促進事業として継続的に実施してほしい。
- ・学校との連携や新たな行事など、よく取り組んでおり、「団体貸出しの充実」も実質増加傾向のため、5項目とも評価は全てAとする。

◆結果の分析及び改善策

- ・引き続き、児童書や10代向けの資料の充実に努める。
- ・ブックリストの配布及びホームページへの掲載に取り組む。
- ・ホームページのブックリストを利用者のニーズにあわせ、見やすいように整理する。
- ・司書体験等、10代が興味を持つ取組みを実施し、図書館の利用促進を図る。
- ・電子図書館の周知を図り、児童生徒への電子図書館の周知を図る。
- ・図書館・学校図書館・ボランティアが連携して子どもの読書活動推進を図れる体制を今後も維持する。
- ・地域コミュニティへの団体貸出しの充実に努める。

④ 図書館ボランティアとの協力を深めるとともに、市民同士の交流の機会・場を提供し、市民がわくわくしながら集い、出会う、楽しい図書館をめざします。

※●は令和5年度重点目標

目 標	ボランティアとの協働事業の実施
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ボランティアとの連携行事の開催 ・活動の場の提供

取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 年間ボランティア参加人数 2,121 人（前年 1,797 人（18.0%増）） 前年度に引き続きボランティアの参加人数が増加しており、ボランティア活動の活性化が窺える。 旧図書館で実施していた図書館まつりをリニューアルし、読書週間にちなんでボランティア紹介のポスター展示や日程を分けて体験行事を開催した。（池田参加人数 43 人） 			
評価	図書館	A	図書館協議会	A

目標	各種行事の開催			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> 他機関等と連携した行事の開催 市民グループ等の学習、発表の機会、場を提供する。 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事開催回数 213 回（前年 163 回） キッズコーナー（池田）や石橋図書館 3 階絵本コーナーなど、開けた場所で申込不要の行事を再開した。 市内イベント「おさんぽマルシェ」とコラボした展示や行事を実施した。（池田） 同施設内のクリニックと連携し、「歯医者さんの子育て応援講座」及び福井県立恐竜博物館より講師を招いた講演会を開催した。（池田） 大阪大学の落語研究会との共催事業として「もみじ寄席」を開催した。（池田） ダイバーシティセンターおよび地域子育て支援拠点と連携したツナガリエ石橋まつり、また、市民提案による講座「絵巻物を読もう」などを実施した。（石橋） 			
評価	図書館	A	図書館協議会	A

目標	図書館協議会の開催			
具体的取組み	多様化する図書館へのニーズに対応するため、図書館協議会の審議を図書館運営に反映し、利用者サービスの向上を図る			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 開催回数 3 回（前年 3 回） 「令和 4 年度池田市図書館の運営に関する評価」の外部評価及び電子図書館導入に関する進捗状況や利用状況、アンケート結果等を報告、審議した。 協議会からの提案に基づく事業内容 <ul style="list-style-type: none"> 歴史民俗資料館とのコラボ展示や講座等の開催についてご意見を頂戴し、次年度以降に実施することが決定した。 図書館まつりの実施について、館の状況に合わせた実施方法への検討をご提案いただき、各ボランティアの特性を活かした行事の開催が実現した。 			
評価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・「ボランティアとの協働事業の実施」では年間のボランティア参加人数が前年に比べて増加していることから、取り組みの効果が出ていると考えられる。
- ・図書館まつり等の行事を公民館や他施設で実施することで、実施した施設の利用増につながるのではないか。
- ・「図書館協議会の開催」について、審議や提案をもとに行事や展示を実施する等、協議会として役割を果たすことができていると思う。
- ・3項目とも協議会の評価はAとする。

◆結果の分析及び改善策

- ・図書館ボランティアの活動内容がコロナ禍前に戻ってきていることから、活動の活性化に向けて支援する。
- ・池田においては、駅前や商業施設内の立地を活かしたイベント実施、石橋においては、複合施設内の他部署と連携した取り組みを推進し、利用拡大を図るとともに、池田・石橋両館合同での事業を実施する。

⑤ 安心・安全な読書ができる環境を整備するとともに、図書館利用が困難な市民へのサービス拡充を図り、誰にでもやさしい図書館をめざします。

※●は令和5年度重点目標

目 標	障がい者サービスの充実			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者支援資料の充実を図る ・ボランティアとの連携を強化する。 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者支援資料数 4,570 点（前年 4,479 点（2.0%増）） 逐次刊行物（雑誌）を新規に受入れした。（7点） 「広報いけだ」のデイジー版の見本を展示し、利用促進を図った。 ・未蔵書のものについてはサピエ図書館のネットワークを活用し、デイジー図書 185 点を利用者に提供した。（前年 356 点（48.0%減）） 前年度より、利用者減による貸出点数減となっている。今後、PR方法等の工夫が必要である。 			
評 価	図書館	B	図書館協議会	B

目 標	●多文化サービスの充実			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●多言語おはなし会の開催 ●洋書コーナーの充実 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティセンターと連携し、多言語おはなし会を開催した。（2回 74人） ・洋書冊数 1,594 冊（池田 1,056 冊 石橋 538 冊） 			

	池田、石橋ともに洋書コーナーの蔵書増加につとめ、ベトナム語、インドネシア語の児童書についても購入、受入れを行った。(前年 1,530 冊 (4.2%増))			
	・英語多読本冊数 201 冊 (前年 197 冊 (2.0%増))			
	・市内学校の先生が制作したインドネシア語の絵本を受入れし、紹介POPの掲示を行った。(石橋)			
評価	図書館	A	図書館協議会	A

目標	図書館への来館が困難な市民へのサービス充実			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・宅配サービスの実施 ・移動図書館サービス ●電子図書館の導入 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・宅配サービス貸出冊数 52 冊 (前年 111 冊 : (53.2%減)) 利用者が減少したことにより、貸出冊数も減少した。 ・移動図書館利用者数 2,348 人 10,901 冊 (前年 2,430 人 : (3.4%減) 11,119 冊 : (2.0%減)) ・市内幼稚園への移動図書館派遣事業や、巡回ステーションでのおはなし会を開催し、来館が困難な市民へのサービスを継続して行った。 (おはなし会 2 回 11 人) ・デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、12 月より電子図書館を導入した。 ・電子図書館コンテンツ数 (2,024 点) 貸出点数 (3,574 点) 予約点数 (1,674 点) ・電子図書館サイトの表示や特集を作成し、わかりやすく魅力ある表示の工夫を行った。 ・電子図書館の使い方講座および体験会を実施し、利用方法やサービスのPRを行った。(3 回 94 人) ・電子図書館の利用者アンケートを実施した。(1 回) 			
評価	図書館	B	図書館協議会	B

目標	良好な読書環境の維持			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・利用マナーの向上を図る。 ・分かりやすい案内や掲示の推進 ・セルフサービスシステムの利用促進に努める。 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・自動貸出機利用冊数 (池田 306,971 冊 石橋 135,736 冊) (池田では全貸出冊数のうち 55.3%、石橋では 70.7%が自動貸出機を利用) ・児童書コーナーの棚の段数や資料の並べ方を見直し、利用者が探しやすい棚づくりを行った (石橋) ・職員の防災訓練を実施した。また、ツナガリエ石橋では3施設合同の消防、防犯訓練を実施し、非常時の対応についての情報共有を行った。 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーアップキャンペーン（汚・破損本の展示によるマナー向上啓発）を実施した。（1回） ・新型コロナウイルス感染症により、制限していた閲覧席やパソコン席等を元の状態に戻し、調べもの等で来館した利用者が快適に利用してもらえるよう図書館ホームページ上でも案内した。 			
評価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・「図書館への来館が困難な市民へのサービス充実」では、宅配サービスの貸出冊数が減少したためB評価とのことだが、電子図書館サービスに移行している可能性もあることから、必ずしも減少しているわけではないとは考えられないか。
- ・サービスが移行している点について、利用者アンケートをとってデータを収集すると判明するのではないか。
- ・「良好な読書環境の維持」について、防災訓練は職員間の連携や意思疎通がとても重要であることから、市民の安全を守るためにも、今後もぜひ続けてほしい。
- ・多文化サービスについて、利用者のニーズを把握して資料の充実に努めてほしい。
- ・多文化サービスの充実」と「良好な読書環境の維持」は図書館と同じくA評価、「障がい者サービスの充実」は今後への期待をこめてB評価、「図書館への来館が困難な市民へのサービス充実」については、電子図書館の導入による影響も加味してA寄りのB評価とする。

◆結果の分析及び改善策

- ・アンケートを実施し、利用者の要望やサービスの利用状況を確認する。
- ・電子図書館の体験会等を定期的で開催し、利用促進に努める。
- ・防災訓練を継続的に実施し、災害に備える。
- ・市の関連課と連携して、障がい者サービスの周知に努める。
- ・障がい者支援資料を広く周知するため、展示やホームページでの案内を工夫する。
- ・マナーアップキャンペーンを継続的に実施し、利用者に対処法を周知することで、快適な利用につなげる。